

平成 11 年 10 月 26 日

**女性施策を進めるため、会派を越えての共闘を！**

## **「豊島区議会・女性議員と語る会」開催**

本日 26 日午前 10 時より、豊島区民センター（東池袋 1-20-10）で、豊島区の女性施策についてともに語ろうと、豊島区議会女性議員 11 名全員の参加を得て、「豊島区議会・女性議員と語る会」が開催された。主催：豊島・女性施策を考える会、豊島区婦人団体協議会、豊島区自主グループ連絡会。

豊島区の女性区議会議員は、今年 4 月の区議会議員選挙で改選 9 名に初当選 2 名を加え、総数 11 名となり、議員定数 40 名のうち 27.5%を占めることになった。女性議員数が 2 桁を超えたのは、豊島区議会史上初めてのことであり、23 区においても 3 番目、また定数に占める割合も都の 15%を大きく上回っている。

区議会におけるこうした女性の進出は、女性施策の推進の大きな原動力として期待されており、本日の「語る会」は、①豊島区の女性施策②豊島区の介護保険制度・課題と展望③子育て支援に向けて、の三つのテーマのもとに、各女性議員の意見を聞こうと開催された。こうした企画に女性議員 11 名全員が賛同し、会派を越えて全員が参加、参加者総数は 61 名の会合となった。

各議員は、自己紹介を兼ね 5 分ほどテーマに沿ってそれぞれの取り組みを語った。

今年 6 月に「男女共同参画社会基本法」が国会で成立したことを受け、区においても「豊島区男女共同参画宣言都市」の早期実現を目指すことでは、どの議員も一致して積極的に取り組んでいく必要を述べた。また、介護保険、子育て支援といった、女性施策と切り離せない問題についても、少子高齢化のための諸施策として、保育サービスの充実や高齢者によるボランティア参加の推進など、女性議員ならではの体験に裏打ちされた意見が出され、参加者も随所で頷きながら熱心に耳を傾けていた。

さらに、女性施策推進のための視点として重要なのは、男女ともにの人間尊重であり、男性中心社会に女性が同化すると言うのではなく、互いの個が尊重される新しい理念を男性と力を合せて形成していくことが必要だと確認しあった。

最後に主催者側から、「政治的には各会派として同調できない点も多くあるだろうが、女性施策の推進のために共闘を組んでいって欲しい」とのエールが贈られ、またこうした超党派で語り合う機会の継続と「次には是非男性議員も」とのコメントで 2 時間に及ぶ「語る会」が締めくくられた。

**詳細：主催団体**